

文学研究科長
法学研究科長
経済学研究科長
各 位

2022年10月吉日

一般財団法人石橋湛山記念財団
代表理事 石橋省三

2022年度・第15回「石橋湛山新人賞」授賞候補作品推薦のお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます

2008年度に創設いたしました「石橋湛山新人賞」は、大学院生（博士課程、修士課程）による石橋湛山の思想（自由主義・民主主義・国際平和主義）に直接間接的に通じる優れた研究を表彰することにより、当該分野の人材の育成と研究の深化を支援することを目的としております。この授賞により、若手研究者の方々が活躍の場を一段と広げられることも祈念しております。

ご案内の方もおられるかと存じますが、昨年度の第14回新人賞は、一橋大学大学院法学研究科博士後期課程の谷京氏著の『日朝貿易に関する日本政府の政策決定：1960年代前半における直接輸送と直接決済の実現を中心に』に授賞いたしました。

つきましては、ご多用中まことに恐縮に存じますが、2022年度・第15回授賞作品の候補として、過去1年間（2021年10月より2022年9月）の間でお目にとりました論文、評論、随想などをご推薦いただきたくお願い申し上げます。ご推薦は別紙の要項によっていただきたく存じます。皆様によりご推薦いただいた候補作品は、石橋湛山新人賞選考委員会（脚注参照）において慎重に審査の上、原則として本賞1編、佳作2編以内を選定し、来年2月下旬頃に発表の予定でございます。

なお、本状は有力大学の総長、学長、学部長、研究科長および有力学会の責任者の皆様に送らせていただいております。御機関におきまして、本賞への推薦にあたりどなたか他に適任の方がおられましたら、その方に本状をお回しいただければ甚大に存じます。皆様方のご支援と優れた候補作品のご推薦が、「石橋湛山新人賞」の今後の成長にとって不可欠でございます。是非とも積極的にご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

敬具

（注）石橋湛山新人賞の選考委員会は、東洋経済新報社の外に一般企業の中堅社員および大学教員、石橋湛山賞の受賞者および当財団代表理事などにより構成されます。

第 15 回石橋湛山新人賞候補作品推薦要項

1. 推薦作品について：昨 2021 年 10 月より本 2022 年 9 月までの間に発表された博士課程および修士課程の大学院生執筆の論文や評論などの言論作品をご推薦下さい。大学・大学院・研究所・学会などが発行している公式な刊行物（論文集など）に掲載された作品に限定いたします。政治・経済・外交・文化などの領域において自由主義・民主主義・平和主義の考え方に沿った優れた作品で、石橋湛山新人賞に相応しいとお考えのものをお願いいたします。
2. ご留意いただきたい点：
 - ① 広く一般の読者にも理解し・読み易い論文であること、
 - ② 新たな視点があり、現下の政治・経済・社会（教育・文化を含む）などの課題に真正面から取り組み、一定程度啓蒙的であること、
 - ③ よく考えられた論文であること、
 - ④ 論理構成がしっかりとしていること、
 - ⑤ 執筆者（大学院生）の極めて特定な領域に限られた研究書または学者間の論争に類するものは避けられたいこと、など。
3. ご回答は、同封の用紙にてお願いいたします。書き切れない場合は、別紙をご利用いただいても結構です。また、メールやファックスによるご回答も受け付けております。
4. ご回答は、2022 年 11 月末日までに頂戴いたしたく存じます。

今回、ご推薦をお願いいたしましたのは、国公立大学の学長・研究科長・学部長、人文社会科学系の学会の幹部、有力研究所の研究所長もしくはそれに準ずる方々でございます。

以上

一般財団法人 石橋湛山記念財団事務局

〒103-8345 東京都中央区日本橋本石町 1-2-1 東洋経済ビル 7 階

電話・ファックス 03-3270-8070

E メール zai.tanzanzaidan@juno.ocn.ne.jp

第15回「石橋湛山新人賞」授賞候補作品推薦状

推薦者のお名前

ご勤務先・ご職業 所属・役職等

推薦者のご住所 (勤務先・自宅)

推薦者の電話番号 (勤務先・自宅)

E-MAIL ADDRESS

1. 推薦作品の題名
.....

2. 推薦作品の執筆者氏名及び所属 (大学院生)
.....

3. 掲載されている誌名・発行所 (大学、研究所、学会など)
.....
(2021/22年 月刊：2021年10月から2022年9月の間)

(大変恐縮ですが、掲載されています論文集を財団まで1冊(抜き刷り可)お送りください。PDF ファイルをメールでお送り頂くことも可能です。アドレスは、zai.tanzanzaidan@juno.ocn.ne.jpです。
お送りいただけなかった場合は、選考不可能なため授賞対象から外させていただきます)

4. ご推薦の趣旨 (別紙利用可)

まことに恐れ入りますが、ご回答は2022年11月末日までに頂戴いたしたく存じます。

『石橋湛山新人賞』歴代授賞作品及び受賞者名

回	年度	授賞者	上段：所属（授賞時）、下段：論文名
第1回	2008年度	伊藤真利子氏	青山学院大学大学院総合文化政策学研究科博士課程 「郵便貯金の民営化と金融市場—金融変革期における郵便貯金」 (青山学院大学社会科学紀要)
第2回	2009年度	水口由美氏	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程 「社会的入院に関する総合的レビューとその要因モデルの構築」 (慶應義塾大学大学院 KEIO SFC JOURNAL)
第3回	2010年度	丸尾美奈子氏	早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程 「オーストラリアの年金制度について」 (早稲田大学大学院商学研究科紀要)
佳作		濱井潤也氏	広島大学大学院文学研究科博士後期課程 「マイケル・ウォルツァーの正戦論における道徳性について」 (広島大学大学院ぶらくしす)
第4回	2011年度	宮古文専氏	上智大学大学院 文学研究科史学専攻博士後期課程 「日清戦争以後の清朝対外連携策の変転過程」 (東洋學報『東洋文庫和文紀要』)
第5回	2012年度	劉守軍氏	京都大学大学院 人間・環境学研究科博士後期課程 「宇都宮徳馬の思想史的研究」 (京都大学人間・環境学第二〇号)
第6回	2013年度	堅田智子氏	上智大学大学院 文学研究科史学専攻博士後期課程 「アレクサンダー・フォン・シーボルトと黄禍論」 (上智史學第57号)
第7回	2014年度	授賞作品なし	
佳作		加藤恭子氏	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科博士課程 「二〇世紀初頭における、中国への日本の女子教員派遣と『東洋婦人会』—中国の女子学校教育の実施にむけた協力活動について—」 (『お茶の水史学』第57号お茶の水女子大学読史会)
第8回	2015年度	授賞作品なし	
第9回	2016年度	井上弘樹氏	青山学院大学大学院 文学研究科史学専攻博士後期課程 「台湾における寄生虫症対策と日本の医療協力 — (一九六〇年代から一九七〇年代)」 (『史学雑誌』第125編第8号)

第10回	2017年度	向山直佑氏	東京大学法学政治学研究科博士課程 「第三国による歴史認識問題への介入要因と帰結 — アルメニア人虐殺へのジェノサイド認定とトルコ —」 (日本国際政治学会編『国際政治』第187号)
		植村理氏	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科博士課程 「自分の生き方に自信の無い母親 — 規定要因と考察 —」 (慶應義塾大学湘南藤沢学会『KEIO SFC JOURNAL』 Vol.16 No.2)
第11回	2018年度	川鍋健氏	一橋大学大学院法学研究科博士後期課程 「人民の、人民による、人民のための憲法 — アキル・リード・アマールの憲法論から —」 (『一橋法学』第17巻第2号)
佳作		後藤倫子氏	同志社大学大学院博士後期課程 「ジェノサイド条約の成立におけるラファエル・レムキンの影響 — ジェノサイド条約の準備作業以前のラファエル・レムキンの条約構想の分析を通して —」 (『同志社法学』第70巻第2号)
第12回	2019年度	田中美里氏	一橋大学大学院法学研究科博士後期課程 「フランスにおける『公序』とマニフェスタシオンの自由」 (『一橋法学』第18巻1号、2号)
佳作		布施豪嗣氏	慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程 「石橋湛山の経済理論 — 古典派的側面を中心に —」 (『経済史学研究』第60巻第2号)
第13回	2020年度	授賞作品なし	
第14回	2021年度	谷京氏	一橋大学大学院法学研究科博士後期課程 「日朝貿易に関する日本政府の政策決定：1960年代前半における直接輸送と直接決済の実現を中心に」 (『アジア経済』62巻3号、アジア経済研究所)

注：() は掲載論文集名